

# ミコソ

1998 . 3 . 5 No.69

バングラデシュと  
手をつなぐ会

「バングラデシュと手をつなぐ会」は、バングラデシュのカラムディ村で、現地の村人による委員会(シヨンダニ・シヨンスタ)と協力して次の活動を行なっています。

**教育では** 小学校建設、奨学金制度、職業訓練(タイプ、ミシン)、夜間学級、識字学級など

**医療では** 母子保健センターの建設と運営、定期的な現地での診療活動、健康および環境調査、医療従事者の研修と村人の衛生教育など

## 母子保健センター基金に

### べし協力ありがとうございました

母子保健センターのためにたくさんのかたにご協力いただきました。おかげさまで目標に近づきつつあります。ほんとうにありがとうございます。カラムディ村の人たちがどんなに喜んでいてしょう。

これからも、現地の人たちとの交流、そして日本の中でも、おたがいがもっと親しくなるような交流プランを考えたいと思っています。お友だち

のグループ、地域のグループで呼んで下さい。ビデオや

写真を持ってうか

がいます。これからよろしく

おねがいします。

(大木松子)

ドンバット  
(ありがとう)



## 「母子保健センター支援」募金キャンペーン中間報告

皆さまの善意が172万円(2月22日現在)に達しました

昨今の不況の煽りを受けてか、私たちの会の財務状況もここ数年間は募金収入が減少傾向にありました。そこで今後の支援活動に危機を感じて、年明けから募金キャンペーンを広げて参りました。

会員の皆様には前回のミロンで、募金や会員増員のためのご協力をお願いして参りましたが、その他新聞、テレビ、ラジオ等の報道機関にもご協力をいただきました。記事や放送はご覧になったりお聞きになったりされたでしょうか。

お陰様で、2月22日現在『1,723,760円』もの善意の寄付金が送られてきております。ご協力くださった方お一人お一人が、それぞれの思いで郵便局に出向いて送金して下さったお気持ちに、心より感謝致します。戴いたご誠意は、間違いなく現地のために大切に使用させていただきます。

今回のキャンペーンでは、特に母子保健センターの人材と設備の充実というところに焦点を当てておりますので、このキャンペーンは3月一杯続けます。どうか皆様もよろしくご協力ください。

### 会員のこえ

八木 良子さん

“バングラデシュに小学校を作ろう”との呼びかけでカラムディ村を知って以来、思い続けていた念願の村訪問の日々は私の一生の中で決して忘れる事の出来ない大きな1ページとなりました。訪れた村の自然は、私の想像をはるかにこえて美しく、又人々はまるで前々からの知人であるかのように暖かく迎えて下さいました。村に滞在したのはわずか3日間でしたが、フル行動で多くの場所を訪れ、沢山の人々に会う事が出来、母子保健センターを核として、村全体が確実に息づいているのを感じました。明るい子供達や、村の人々の瞳の輝き、我村・我祖国の為に燃えている若者達の姿には心を打たれましたが、村を愛し、人々の幸福を真剣に願って、毎年村を訪れる“手をつなぐ会”の活動があればこそ村人の輝いた瞳があるのだと痛感しました。目的達成までの道のりは長く、アジアの経済状態の悪化も加わり前途はまだまだ多難でしょう。しかし、村の人達は確実に前進を続けているのです。夏の再会を約して別れを告げる若いツアー仲間達を頼もしく眺めながら、私も自分に出来る事を出来る形で協力し続けて行こうと覚悟を新たにしました。

## 今年度の反省と来年度の課題(4月総会へむけて)

98年度を迎えます。97年度は手をつなぐ会が「小学校をつくる会」として発足してから10年という節目の年でした。小学校や母子保健センターといった建物が完成し、現地訪問や招聘事業、スタディツアーも定着し、軌道に乗ったかに見えます。同時に、これまでの会のあり方や援助・協力の在り方を問い直すなど、問題点・課題も明らかになった年でもあります。

☆ 10周年を迎えた手をつなぐ会は、「10年間を振り返り、これまでの成果や問題点を探り、今後の10年間を展望する」という目的で「10年委員会」を作り、毎月1回話し合いを続けてきました。目的が十分に達成されたかどうか、3月にはこれまでの話し合いの成果をある程度まとめる予定です。10年委員会では、運営委員や中心となって活動してくれるメンバーが、会のあり方や、今後の支援・協力のあり方について忌憚のない意見を交わすことができたと考えています。

☆ 組織体制の見直しも進みました。97年度は運営委員会のメンバーの中で役割分担が決められておらず、運営委員会のたびに、方針決定から実務作業まで行わざるを得ませんでした。12月から「事務局」を設置することによって、具体的な事務作業はできるだけそちらで行うようになりました。まだ試行段階ですが、来年度からはよりはっきりと役割分担を進めたいと考えています。

☆ 95年度までの対外的な活動の活発さに比べ、96、97年度は内部での話し合いや、考え方を深めることに力を入れました。そのことは大きな意味があったようです。一方で、一般市民への働きかけの場が、招聘事業の時の報告会1回きりになったこと、会員同士の交流の場もほとんどなかったことなど、問題点も出てきました。1月からの「母子保健センター支援」の募金活動では、あらためてマスコミ、会員、医療機関などへの呼びかけを行い、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。対外的な広報活動を持続的に行うことの大切さを痛感しました。

☆ この他にもっとも大切な現地との交流、意見の交換、そして私たちはどのような考え方でカラムディ村と付き合うのか、といった問題などがあります。昨年の現地訪問の際の地元スタッフとの話し合いはこれまでも増して充実したもので、その後のお互いの活動に大きな意味を与えたと思います。単なる「豊かな国の資金援助者」と「貧しい現地」という関係ではなく、共にカラムディ村、バングラデシュの人々の生活、教育、医療などの発展と向上を求める、その活動を通して私たちが日本での生活や国のあり方を見直す、という立場での交流を今後も続けていきたいと思っています。会員の皆さんの率直なご意見とご協力を今後ともお願いします。

(二ノ坂)

## カラムディ村だより～小学校の改革が進んでいます

この2・3年ジャパニ小学校の教育内容や生徒・先生・村人の関係が問題になった。毎年バングラデシュを訪問する際、この問題をどうするかを話してきた。昨年、夏の現地訪問の時も、又スタディツアーの時も先生や村人とたくさん話し、みんなで具体策を考えた。その結果、先日、ジャパニ小学校から手紙があり、次のような内容だった。

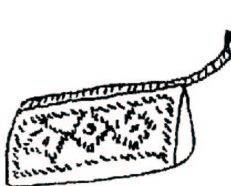
今まで、教室の数が足りていても先生の数が足りないため、学校は2部制（1・2年生は午前中、3・4・5年生は午後）の授業を行ってきた。子供たちは学校にいる時間が非常に短く、学校で勉強するところまで至らない。帰宅しても教えてもらえる人もいないし、ほとんどの家庭には子供の勉強部屋がない。だから勉強する環境がないので、子供たちは学年があがるにつれて学習の面でますます遅れてしまい、やがて退学してしまう。

又、1人の先生当たりの生徒数が多いので、全生徒に目配りが難しい。とにかく子供たちが学校にいるあいだ、勉強を十分にできるような環境を作らなければならない。この問題を解決するために余分なお金をかけずにどうやって全クラスを一斉に始められるか考えた。まず、生徒の数を考慮して1年と2年を2クラスずつに分ける。3, 4, 5年生は各1クラスで、合計7クラスになる。先生の数は少なくとも9人必要だ。現在4人の先生がいる。残り5人の先生を次のように確保しようと思っている。すなわち、残念だが、長年つづけてきた幼児学級（小学校入学前の子供たち対象）を廃止し、二人の先生に小学校で教えてもらう。彼女らは午前中の授業が終わり次第帰宅する（その分手当が少ない）。また職業訓練センターのタイプの先生に午前中学校に来てもらう。現在のスタッフの中からはこれ以上分配出来ないで、どうしても2人の先生を新しく雇わなければならない。シヨンダニの経済的状况を判断した上、今年とりあえず1人の先生を雇う予定。

又、子供たちの出席率を高めるために週末の木曜日放課後、みんなで家庭訪問をする。親の意識向上のために、PTA会合を今まで以上にひんばんに行く、などといった改善策が立てられ、実行されている。

夏の現地訪問の時、学校が活性化され、子供たちがのびのびとして、先生達が生き生きとした子供たちを育てる喜びにあふれる姿を楽しみに待ちましょう。

(ラフマン)



クッションカバー  
コースター  
写真立て  
パンケース  
etc...

現地からはこんできました。女性の  
手縫いの品物。販売しています。



## スタディツアー報告会を行いました。



昨年の12月に8名で、カラムディ村にスタディツアーに出かけました。その報告会を2月11日アクロス福岡で行いました。普段と少し趣を変えて、丸く円になって座り、お互いの顔を見ながら進めたため、たくさんの意見を交換することができました。会員、初めての方、他のNGOで活動されている方、他県からの方、バングラデシュに3年住んでおられた方とさまざまで、いろいろな思いがありました。

訪問メンバーがそれぞれ感想を述べ、質問や意見の交換を行いました。村人の未来、これからの方向性、会の関わり方など、短い時間でしたが参加者全員で考えることができたようで、うれしくなりました。

会員のみならず、要望があれば可能な限り出かけて行って、報告会を行います。もっと知りたい、友達に話してほしい、教えてほしいと思っておられる方はいらっしゃいませんか？ どうぞ事務所の方にご連絡ください。

### カラムディ村現地訪問 / 1998 参加者募集

今、村にはいろいろな問題があります。

まだまだ低い就学率、教育の質、教科書の不足、看護婦が足りない、女医が必要、救急車が足りない、病気に対する村人の知識が不十分……

村人は自分たちの村を、自分たちの未来を、よりよくしようといっしょけんめい歩んでいます。彼らと話すたびに、その思いは強く伝わってきます。

今年の夏もまた、現地に行きその思いにふれ、一緒に活動し、ともにこれからを考えていきたいと思えます。一緒に活動して下さる方、ご連絡ください。

**訪問予定期間 7月18日(土)～8月2日(日)**



参加費用は未定です。(昨年は約17万円)

4月末日までに申し込みください。

申込み先：ラフマン 632-3382

二ノ坂 872-1136



## 福岡第一高校の生徒さんから 感想文



去年の秋、九大学生の衛藤くんとわたしは、南区の第一高校 3年生のクラスで、バングラデシュのビデオを映してお話をしました。先日、生徒さん31人から感想文が届きました。その中から……

- 小さなあかり、ボロボロの黒板で一生けんめい勉強している人たち、昼間働いて夜に夜間学級で勉強しているのです。その姿に感動しました。
- 人へのやさしさ、動物と人間の平等、日本人がなくなっているものを、バングラデシュの人は持っています。人の本来あるべき姿が残っています。
- バングラデシュへ行ってみたい。お金を節約して送ってあげたい。バングラデシュの人たちのために役立つことをしたい。

やさしい、真剣な、心のこもった感想文 ありがとう! (大木)

愛媛県宇和高校からバングラの子どもたちに

学用品をいただきました。

宇和高校の森春美先生は授業の中で「バングラデシュのこと」「手をつなぐ会」のことを生徒さんたちに知らせて下さったのです。ありがとうございました。



「おこおりアジアを学ぶ会」は、近くて遠いアジアの国々への協力と共に、その国の文化や、貧しくとも明るく健気に生きている人々に接し「真実の豊かさ」を共に学びたいと昨年11月に発足致しました。1月にラフマンさんと出会い2月11日のスタディツアー報告会にお招き頂き、沢山のことを学ばせて頂きました。中でも成人女性の識字教育の報告で、「親が識字出来ていたなら現在の自分の生活も変わっていただろう…」という現地の方の言葉を聞き胸を打たれました。私達の会は生まれたばかりの小さな会です。でも少しでもお役に立つことが出来るならバングラデシュと手をつなぐ仲間として、手をつながせて頂きたい。大きなことは出来ないけど、身の丈に応じた高さで手をつながせて下さい。そして、皆様方からたくさんの「知恵」と「力」を与えて頂き、共に汗を流させて下さい。よろしくお願い致します。

おこおりアジアを学ぶ会 代表 檜橋 八重子

## NGO列島縦断フォーラムが

開かれました。

1月25日(日)にアクロス福岡の国際会議場で、「第2回NGO列島縦断フォーラム」が開かれました。参加者は220名。NGOに関わっている人たちはもちろん、学生や一般の方、初めての方も多く見られました。

「国境を越える地球市民のネットワーク」のテーマのもと山形で循環型社会作りを目指している菅野芳秀さんの「命の輪 レインボープラン」、ラオスでの森林保全プロジェクトの経験から学んだ赤阪むつみさんの「自分たちの未来は自分たちで決めたい」、フィリピンの「民衆農業創造計画」を取り上げた「自立と循環の地域作りを目指して」(日本ネグロスキャンペーン委員会・小林さん)などの全体会、「農村開発とNGO」「住民参加の社会を築く対話、共有、参加」「開発教育をとおして考える学校教育とNGO」「女性(ひと)と男性(ひと)～農村花嫁から見た男女&国際関係」といった分科会が行われました。

また、NGO活動紹介コーナーも設けられ、手をつなぐ会からも現地訪問などの写真展示を行い、好評でした。

また今回のフォーラムは、聴覚障害者の方も参加で知るように「要約筆記」ボランティアをお願いし、参加者はもちろん、実行委員もあらためてその重要性和大変さを痛感しました。

## お知らせとお願いコーナー

### 3月～5月の行事予定

(未定・変更される場合があります。ご確認ください。)

月 日	時刻・時間	内 容	場 所
3月9日(月)	19時～	10年委員会	西新事務所
13日(金)	19時～	事務局会議	にのさかクリニック
19日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
26日(木)	14時～	バザー用品値段付け 物品整理	西新事務所
28日(土)	14時～	バザー準備	西新事務所
3月29日(日)	13時～16時	チャリティバザー	西新商店街
4月9日(木)	19時～	事務局会議	にのさかクリニック
11日(土)	14時～	NGO福岡ネットワーク総会	アクロス福岡
16日(木)	19時～	運営委員会	西新事務所
4月19日(日)	13:30～16:30	手をつなぐ会総会	あいれふ研修室
5月7日(木)	19時～	ミロン印刷	にのさかクリニック
7, 8日	14時～	ミロン発送作業	西新事務所

チャリティバザー 3月29日(日)西新商店街で行います。  
バザーに提供できる品物がございましたら、西新事務所またはにのさかクリニックまでお持ちください。持ち込みのできない方はお電話ください。

事務所 Tel:092(844)1369 にのさかクリニック Tel:092(872)1136

テレホンカードの交換が  
終了しました。  
皆様のマご協力のおかげ  
で、合計三七、〇〇〇円  
に換金できました。  
マ協力ありがとうございました。

### Bangladesh と手をつなぐ会

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX 092-844-1369

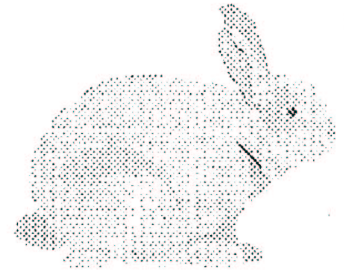
代 表 大木松子

郵便振込 01720-2-10442

加入者名 Bangladesh と手をつなぐ会



手をつなぐ会総会を会員の皆さんの手で  
もりあげましょう



## バン格拉デシュと手をつなぐ会 総会のお知らせ

年に一度の「バン格拉デシュと手をつなぐ会」の総会が来る4月19日（日）に開かれます。

正会員の皆さんはぜひご参加下さい。（都合でどうしても参加できない方は、委任状をお寄せ下さい。）

協力会員の皆さん、募金をお寄せ下さった皆さん、会に興味をお持ちの皆さん、ちょっと入会してみようかと思っている皆さん、その他の皆さんもどうぞ自由にオブザーバー参加して下さい。

**日時** 4月19日（日） 午後1時30分～4時30分

**会場** あいれふ婦人会館8F 研修室A

福岡市中央区舞鶴2-5-1

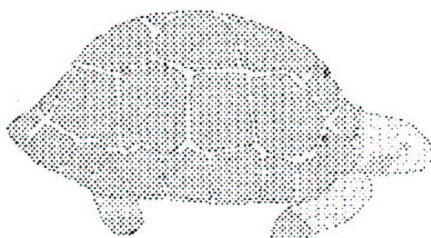
電話 712-2494

**内容** 97年度の活動内容を振り返り、98年度の計画を考え、決定します。

決算や予算などお金の問題も話し合います。

その他に、カラムティ村の様子についての話や、今後の会のあり方を自由に話し合います。

皆さまのご参加をお待ちしています。



## ご協力ありがとうございました

これまでに「母子保健センター支援募金」にご協力くださった方々です。  
皆様方のあたたかいご支援に心から感謝いたします。(順不同・敬称略)

### 団体

西南幼稚園母の会    しののめ共同作業所    調布教会教会学校    育英ゼミナール  
くすりのかも川    R I Cこぼ    戸早病院    九州電機製造(株)企画部  
山口内科    林外科医院(宗像市)    矯風会蒲田支部    静岡一番町教会CS  
寺沢料理教室    福岡女学院    中・高宗教部    にのさかクリニック

### 個人

大山幸子	村上静男	中嶋幸子	平島禎子	園田千晴	山田	松添
堤松雄	幸田政子	三小田民子	脇元由美子	枝光泉	早川あき子	
滝本康子	上田八重子	原徳光	青木郁	竹中敏幸	安河内定子	
中間令三	永田妙子	村橋良彦	佐田まゆみ	松岡励子	荒川裕子	
武田隆次	大穂千鶴子	柿原啓子	江尻美穂子	立花時子	坂井愛子	
小池啓臣	白水一代	安藤睦子	大久保明	鈴木恵美	古賀スエノ	
八木良子	中川章子	松尾邦子	石井蘭子	岩田ミドリ	池田久良治	
武長登志治	関根浩介	池田愛美	小坪裕子	富田桂子	杉野喜和子	
北島弥太郎	徳吉由紀子	山口直恵	中村史啓	中村恵子	古賀久美子	
佐竹準之助	斎田裕子	赤祖父和子	緒方恭代	近沢敬一	二瓶温子	
前田理香	中里雅子	杉本久典	小出としえ	宇治野みさる	戸丸敦子	
岡部幹生	村山弘幸	福留律子	竹田勲	河野忠繁	箱田恵子	
小泉カツ子	飯野孝子	中田薫	古賀浩子	松下幸子	松下真弓	
江頭好子	佐伯邦男	杉園順代	福島啓子	進はじめ	井上慶子	
櫻井尚明	下平作江	岡本ツタエ	白木ミサオ	平山紀久子	江上暁子	
鈴木美幸	母里マサヨ	折田璋子	田代カメヨ	村石敦栄	古川敏夫	
鷺坂(英輝)	松尾恵子	駒形(ハル)	日野好子	岩月マリ子	吉川八重子	
伊藤啓子	辻井ふみ子	古川由美子	惟永百合子	田志富美子		

### 新協力会員

赤星美佐子    飯本寛    木村弥生    西泊由紀子